

ガンコ親父の

男子陸上100メートル競技でついに夢の9秒台が出た。それをニュースで知ると、自称「島の超特急」の松次郎はその夜、『しまっちゅ伝蔵』で祝杯をあげた。

翌日の日曜日、長男の息子である孫の「博喜」が遊びに来た。博喜はいつも松次郎の創作話を聞きたがったので、「9秒台」が頭に残っていたせいもあるって、松次郎はウサギとカメのレース話を始めた。

野ウサギだったら時速70キロメートルで走れるという。あのウサイン・ボルトの1.5倍ほども早く走れるスピードだ。亀には無尽蔵のスタミナがあるとはいえ、ウサギはそれが通用する相手ではなかった。しかし、亀は頑固だった。ウサギに勝つために毎日苦しいトレーニングに明け暮れた。そして、ついにウサギに挑戦状を出したのだった。

レース当日、スタートはしたものの、やはりスピードが違いすぎた。途中、あまりにも遅い亀に油断したウサギは、店から酒を買って来て、赤陰で一杯やり始めた。亀に追い抜かれても、それからでも間違いない勝てると思ったのだった。

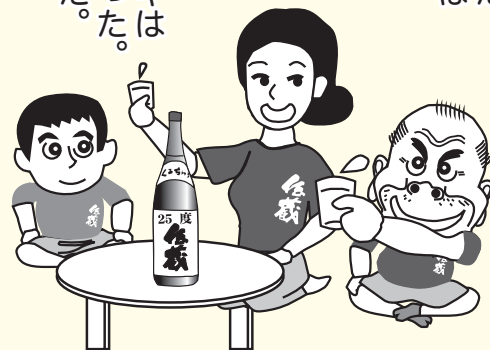
「昼間から赤い目をして、お前良いものを飲んでるな」と、そこに老いた狼が現れた。顔にたるみは多いが、それでも黄ばんだ牙をざらりと光らせ、なかなかの迫力だった。ウサギは酒を振る舞うしかなかった。ウサギ肉が大好きな狼は食前酒がわりにちよと良いと、出された酒をあたり始めた。慌てながらもウサギは一計を案じた。たくさん飲ませて酔わせてしまおう。そうすれば千鳥足の狼なんか怖くないと、次々に酒を勧めたのだった。

「最近、スタミナ切れを感じるが、それにはジビエ料理が一番やな」と、うさぎの太ももをじつと眺めた。ウサギは狼の視線に震えはしたが、すぐに機転を利かした。「スタミナをつけるにはスッポン食が常識ですが、なんだったら亀がもうすぐ来ますし、まあ、同じ亀族なので、スタミナ効果も期待できるでしょう」と亀には悪いけど、口からでまかせを言った。予定通り現れた亀の甲羅は硬そうに立派だった。

狼は「いくらスタミナ食とか言うても、こいつは、ちよっと『噛め』へんがな」となぜか大阪弁で言った。「やっぱりお前の方が柔らかそうで美味しそうや」とすこんだ。慌てたウサギは逃げ出した。酔っ払った年寄りとはいえ、やっぱり狼は狼。ウサギの背後から、どんだん近づいてくる。不思議だ、あれだけ飲ませたのに。ウサギは信じられない思いでコースを逆走した。悪酔いしないと言われる良い酒を飲ませたのが失敗だったのだ。亀はまわりのドタバタにも惑わされることなく、ひたすら歩き続け、勝利のゴールテープを切ってしまった。

強い「狼」、機転が利く「ウサギ」、愚直な「亀」のどれが好きかと、松次郎は博喜に尋ねた。博喜は少し頭を傾けた後、僕はそれより、そんな話をしてくれるおじいちゃんが一番好きだ、と言った。松次郎の心にさっと幸せが訪れた。やっぱり「孫」と「しまっちゅ伝蔵」はやめられないな、と松次郎はニンマリした。

奄美黒糖焼酎



しまっちゅ伝蔵

常圧蒸留

昔ながらの手造り
こだわり焼酎

喜界島の豊かな大地の恵と豊かな自然の中で、永年の伝統に受け継がれた製法でじっくりと醸しあげた「しまっちゅ伝蔵」黒糖焼酎の味を全面に出し昔ながらのコクのある味と香りです。



900ml (25%) 1800ml (25%) 1800ml (25%)



喜界島酒造株式会社
鹿児島県大島郡喜界町赤連296番地12
☎0997(65)0251



the most beautiful
villages in japan
喜界町
鹿児島県

25度
好評発売中

2009年10月喜界島は「日本で最も美しい村」連合に選ばれ、加盟しました。喜界島酒造(株)はこの活動を応援しています。

新・**兔と亀に乾杯!!**

うさぎ

<http://www.kurochu.jp> お酒は20歳になってから。お酒は楽しく適量を。飲酒運転は法律で禁止されています。妊娠中や授乳期の飲酒はお控えください。